広報きんき

詩を吟じるにはまずその詩を知るべし
朗吟中は姿勢を正し詩中の人となるべし
気品と迫力至情にみちた吟を尊ぶべし

発　行　吟道賀堂流 近畿本部
責任者　魚住 賀久
編　集　近畿本部 広報部
発行日　平成26年12月１日
第３４号（通巻７５号）

所感

吟道賀堂流近畿本部
会長 魚住賀久

師走になり寒さが厳しくなってまいりました。

会員の皆様には日々の吟詠活動に精進のこととお喜び申し上げます。平素は近畿本部に対し絶大なるご支援ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

さて、今年一年を顧みますと、日本列島各地で大雨や台風など天候不順が続き8月20日に起きた広島県の土石流の災害は過去30年間で最大の惨事でした。亡くなられた方70数名、また9月27日には御嶽山で起きた噴火で50数名あり、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

翻って、私達賀堂流は記念の年でありました。流祖礒部賀堂生誕120年・創流80周年の記念事業が行われ「記念祝賀会」・「記念第24回吟士権大会」が開催されました。会員皆様の団結と協力のもと盛会裡に終える事が出来ました。心より厚くお礼を申し上げます。

積年の懸案である会員の拡充について今年3月に実施された会長・事務局会議（各吟詠会代表）の席で会員増強のアンケートをお願い致しましたところ貴重なご意見を寄せて頂きました。

一、組織として外部団体との交流を図り積極的にＰＲ活動を進める
一、会員募集のチラシを広く配布し周知を図る
一、各吟詠会においてＰＲ担当を決めて地域の実情に即した活動を支援する

このようなアンケートに基づき、今後近畿本部として取組体制の見直しを図り、次の項目を重点課題として推進をいたします。

一、全ての会員が「会員減少」の危機感を持ち更なる一人一声運動を展開する
一、組織的な勧誘活動の活性化策を実行する
一、会員増強プロジェクトチームを設置して定期的に会合し具体案をまとめる

未来に向かって輝く吟詠団体となるように、会員皆様のアイデアと熱意で成果が上がりますことをご祈念申し上げます。

会員減少対策について

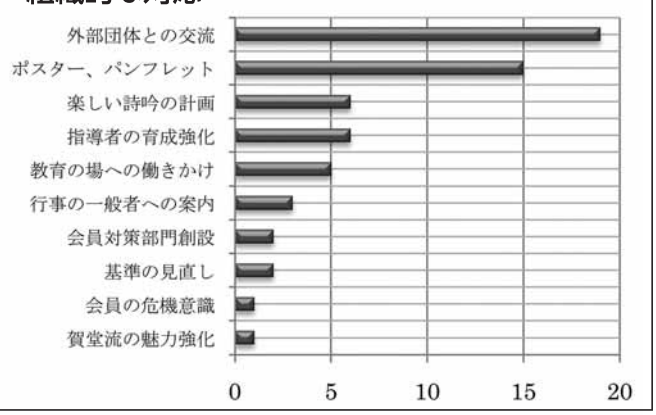
近畿本部では、会員減少対策について、去る3月15日開催の会長・事務局長会議にて審議した。会員募集のパンフレットを集会所や公民館、センター等の目立つ場所へ設置し多くの皆さんの目に留まるように各吟詠会に依頼した。

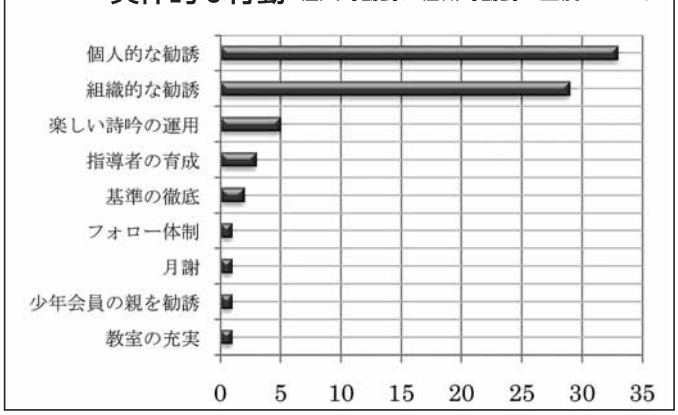
吟詠会からは、会員を減らさないため、会員を増やすための取組みについて種々意見が出され、更なる会員の減少の対策に努めることとした。

また近畿本部として組織的な取り組みを展開すべく検討を始める。

会員から頂いた会員減少対策のアンケートは60件あった。

会員増強アンケート





少年の集いと吟を楽しむ会

次世代の息吹き感じる少年大会

桜の花、満開の4月5日、市川町文化センターコミュニティホールに於いて「第36回吟を楽しむ少年のつどい」が開催されました。

「おはようございます」子供達の元気な声！　どの子も本部の先生方や部員の顔も馴染みになり、あいさつ交わして、すぐに会場が『元気パワー』でいっぱいに活気付きました。

宗家先生を始め、本部の諸先生方のご臨席を賜り、また市川吟詠会の賛助と市川町文化協会のご後援を頂きまして、盛大に開催された事を嬉しく感謝いたします。

幼少年達の弾ける様な爽やかな笑顔と一人ひとりの成長を育み見守るやさしい雰囲気とが、穏やかに流れて、ほのぼのとした楽しい集いとなりました。

開会のことばに松井賀鶴先生が子供達に「詩吟をしていたら、たくさん良い事があるのですよ」と語りかけられ、将来に繋がる事を解かれ「勉強で忙しくなっても辞めずに詩吟を続けていってほしい」と祈りの如く話してくださいました。

少年司会担当も6年目に入り、今年は平山宝励君と塚原宣茉さんの高校生2人がしっかりと落ち着いて立派な司会振りを発揮してくれました。

初舞台の挑戦は毎年続いています。今年は上郡吟詠会の横山さん姉妹（幼年・3才）が元気一杯の吟でスタートを切ってくれました。次々と子供らしい素直な吟が続き、どの吟士もマイクの前で堂々と吟じられ拍手喝采でした。付き添いで来た妹さんがお姉ちゃんと一緒に「金州城…」を口ずさみ、飛び入り参加に会場が大いに沸き、来年の初舞台に繋がる様に…と皆が期待しました。少年吟と言えども高校生の吟詠となると大人顔負け。

いや、もう負けていると感じさせられる立派な吟を発表してくれました。また、家族吟も「愛」いっぱいで、ほのぼのと思わず笑みが溢れ心が和みました。続いて指導者吟や賛助吟にもどの子も静かに耳を傾け行儀よくマナーを守られ日頃の指導者先生方の教えの尊さを感じさせられました。

毎回、待ちに待ってる褒賞授与。

魚住会長と宗家先生より手に溢れるばかりの褒賞を頂き、記念写真では一人ひとりの自信に満ちた笑顔が眩しく思えました。

今年は特別に宗家先生より新刊の朗吟集がプレゼントされたので、熟年少年部員もはりきって童詩の中の『浦島太郎』のお話を寸劇にしました。誰もが知ってる昔話なので楽しく喜んで頂けたようです。そして劇の続きに普及指導部の女性の先生方で、会場の子供達に吟の指導をして頂きました。

子供達はさっき頂いた本を早速手に開き、最初1節ずつ口移しで反復聞き取り練習をしていたのに気が付けば一緒に吟じているので、途中から符節を見て吟じる流れに変わっていました。皆初見にもかかわらず、大きな声で吟じられているのに、只々驚嘆でした。

私達は、賀堂流という大きな懐に抱かれ、宗家先生の温かい真心に支えられながら、日々の練習が出来る事への幸せを感じずにはいられません。そして、賀堂流の次世代は着実に育っている事を確信した時間でした。どうかこの会が永遠に続く事を祈っています。

（熟年少年部　太田賀筵）

吟を楽しむ 少年の集い

第36回、子供達の楽しい会が、市川町文化センターコミュニティホールにて行われました。

ご宗家を始めとして、この度も諸先生方いろいろ趣向をこらしていただき、有難うございました。

当日、松井先生から開会のご挨拶を頂きました。子供たちに呼びかけるかのように、暖かく、解りやすく、詩吟を好きになる事が今から先の将来に、どのように役立つかの大切さをお話し下さいました。

その後、次々と発表が始まり、中には、幼い3才の子供さん達も家族吟で、

お母さんや兄弟姉妹共にマイクを持って堂々の吟、可愛い中にも胸を張って、しっかりとした姿に時代を感じる思いでした。

また、熟年少年部の先生方による浦島太郎の寸劇、会場の皆さんが芸の上手さに、しばらく真剣に見とれていました。

引き続き、新しい朗吟集のおけいこをさせて頂き、会場内から子供さんの大きな吟声が聞こえていたのが、印象的でした。

この後、賛助吟詠として、市川吟詠会及び諸先生方の吟も披露して頂き、なごやかなうちにご宗家から、子ども達へのプレゼントが始まりました。

一人ひとりにメダルを首に掛け乍ら、やさしく声かけられ、今年は特別に、子供達の為に、心身をつぎ込んで創って下さった、見るからに楽しそうな挿絵一杯の朗吟集をも下さって、直接指導者としての私も、ご宗家のお気持ちの温かさが、本当に有難く感じて居りました。

おわりに、魚住会長が「偶成」木戸孝允作の吟を、言葉一つ一つを丁寧に解説して聞かせて下さいました。

才子は才ならず、愚は愚ならず。

人生を長く生きてきた私は、今さら乍ら良い教えであり、今日の会に誠にふさわしい、良いお話であったとつくづく思いました。

このあと、野町先生の心温まるやさしいご挨拶を最後に、楽しい会が終わりました。

これは余分の話ではありますが、今年の年始めの私のお稽古場で、子ども達がご宗家に「お年賀状を出したい」と言い出し4人が寄せ書きで出させて頂きました。思いがけなく、とても喜んで下さって、この可愛い年賀状を宝物にさせて下さいと言って下さって、私は温かいお人柄に驚いて、只、「ありがとうございます」と申し上げたものでした。

日々、御熱心に前向きに頑張っておられるご様子に、私自身、微力ながらも頑張らねばと気を引き締める思いでおります。

諸先生方には心からお礼を申し上げる次第でございます。有難うございました。

（市川吟詠会　成田　賀葵）

「僕の詩吟の本やでー」

吟を楽しむ会に孫について行きました。元気いっぱいの子供の吟は素直で透き通る様な吟に心洗われる思いが致しました。この子供達は賀堂流の大切な宝物だと思います。

この子供たちを大切にそして楽しんで吟が続けて行ける様にと少年部の先生役員の皆様の心温まるおもてなしは幼い子供達の良い思い出と成った事でしょう。

吟を通して礼を知り、人の温かさを感じられる子供達は幸せだと思います。沢山のお土産を持ちきれない程の数々の品を抱き嬉しそうに会場を出て行かれる一人ひとりの顔は満足そうでした。

我が孫も、詩吟に出てこんなに沢山もらって嬉しい。

「一番うれしかったんは、この本やで、僕の詩吟の本やで！、姉ちゃん、姉ちゃん、僕が小さい頃に七田チャイルドアカデミーで70回も言って暗記していた「雨ニモ負ケズ」が、こんな長い詩が詩吟になってるんや、すごいだろう、お正月に皆でする百人一首もな！　もっとすごいんはな、童話がやで、桃太郎も浦島太郎もあるんやで、すごいやろう」大きな目をくるくる回して、僕の本が出来たんやと大喜びでした。「むずかしい詩吟ばっかりと違うんや、これだったら友達に言ってもわかるんとちがうかなとおもうわ。だってな、小学一年の時クラスで先生に詩吟を皆の前でする様に言われてしたら皆が笑ったんや、悔しかったけど、きっとむずかしい詩吟だったからやなー笑われたんやと思う。桃太郎や浦島太郎だったら皆がわらわへんだろうな」本当に嬉しかったみたいでした。悔しい思い出もこの一冊の本でふっとんだみたいな、はしゃぎ様でした。詩吟に連れて行く時は一、二年前にはおもちゃで釣ったり、お菓子で釣ったり、機嫌取りながらも三年目、「今日も初伝の昇格考査を受けて合格したんや」と両親に嬉しそうに報告していました。

「皆によう頑張ったないうていっぱい、いっぱい頭をなでてもらって気持ちが良かったわ、むちゃ嬉しかったで又頑張って詩吟するわ」

すこしずつ成長して行く孫を叱りもせず、諦めもせずにきっちりとまず読む事から、口の空け方から、声の出し方まで音程はコンダクターできっちりと教えてやって下さった先生に感謝しています。同じ教室の皆様も我が孫の様に可愛がって頂き貴博は詩吟をしていて本当に幸せ者です。今日も帰りに車の中でコンダクターを叩いて楽しそうに帰ってきました。これからも我孫に声をかけてもらって喜ぶ姿を見た時は、子供さん達に温かい声かけ・励ましの声掛けをさせてもらい、それが励みになって吟が好きに成ってもらえる様に皆で育てて行きたいと思います。

（北辰吟詠会　井上賀麗勝）

第6回 歩こう会
家島町 坊勢島を歩く

□潮風香る坊勢島の旅

26年5月6日快晴のもと、姫路港には多くの会員が参集。坊勢汽船に予めお願いして長机を2本借用しセッティング。受付場所では皆さんが受付され名札・スポーツ飲料・しおりを受け取る。少し肌寒いのか建物の中で時間がくるのを待つ。乗船場へ並んで進む。

楽しそうな表情が印象的だ。定刻の10時5分に出港。穏やかな海面を高速船は快調に飛ばす。船外に見える景色も工場群が現れ、産業の隆盛を感じる。やがて男鹿島に到着。目的地の坊勢島は見えている。奈座港に着く。港には出迎えの家島観光事業組合の皆さんが。小崎さん以下7名。

□スケジュール説明

ここで挨拶と本日のスケジュールなどの説明を。教養部の神吉部員が司会役で魚住会長の挨拶。「素晴らしい天気に恵まれました。今日はゆっくりと楽しんで会員相互の親睦を図っていただきたい。初めて島を探訪できるのを楽しみにしています」

続いて礒部宗家の挨拶。「若い時に島へ来て以来何十年振りに坊勢島を訪ねる機会に恵まれ喜んでいます。教養部の皆さんが準備され感謝。今日は皆さんと一緒に島の風景を楽しみたい」

班分けの説明をして、3班で行動開始。1班は賀峰・中播・東播・赤双・うすき・市川。2班は北辰・太子・北播。3班はしらさぎ・白陽。礒部宗家は1班に。最初の訪問先は、恵美酒神社。

蛭子大神を祭神として例祭の秋祭りが11月3・4日に開催。通称はえべっさんと言われている。瀬戸内の眺望が素晴らしい。町並みを通り抜け坊勢サービスセンター前を歩く。坊勢スポーツセンターへ。ここで昼食タイム。地元の2つの業者が作った弁当が披露される。どちらが美味しいやらと興味津々。

どちらもボリュームがあり魚も新鮮で美味。お友達との談笑があちこちで聞こえてくる。班ごとに記念撮影。横断幕が正面に設営され広報部の先生が撮影を。3回ぐらいシャッター音が聞こえる。無事に撮影が終わり次の目的地に

□坊勢海水浴場で合吟

波の化石のある坊勢中学校校庭へ。昭和34年に発見され、約2億年前の波跡を示すもの。よく発見したと感動する。途中の坊勢運動広場ではトイレ休憩。坊勢海水浴場に3班全てが揃う。歩こう会恒例の合吟が始まる。1番目はリーダーを春名先生が務め、「賀堂流会詩を」朗詠。

土居さんは「望海」を、眼前に海を眺めて詠う。森本さんは「春暁」。思いを込めて熱吟。小島さんは「尋春花」を。養父市の自宅から車の中でずっと練習されたと。堂々としていてまさに季節感が醸し出されていた。柴田さんは「佳賓好主」を。春の夕暮れのひと時が目に浮かぶようだ。藤本さんは「菜の花や」を。優しい吟じ方で魅了された。

最後に子供さんお二人で春の小川を熱唱。白陽の上地さんの孫さんで、玲奈さん小学3年生、綾音さん小学1年生。清々しい声が海岸に響いていた。

紙飛行機を各自が作製して一番遠くに飛ばした人には豪華な景品が進呈。子供のころに帰って必死に飛ばしていたのが面白い。童心に戻るのも悪くないものだ。砂浜で座って陽光きらめく海を眺めているだけで何かほっとする。癒しの時間を楽しまれたのではないか。

□弁天島のじんごんさん

坊勢の町並みや漁港風景を楽しみながら弁天島へ向かう。神権伝説が有名。掟破りの荒漁する漁師と利発で優しい娘がいた。龍神のたたりで船が転覆しそうになり娘は父を助けるべく海に身を投じた。嵐はおさまり美しい島が現れた。それが弁天島。朱塗りの橋を渡り海神社で各自が参拝する。

海神・竜神・弁財天が祀られている。

橋上でのスナップ写真に興じる。奈座港に無事到着する。お礼の挨拶などあり、土産の販売もあり帰りの輝観光の船2隻に乗船。姫路港へ一路進む。

姫路港の桟橋付近で、野町副会長の挨拶。続いて山本理事長の挨拶で締めくくる。参加会員はちょうど百名でした。感謝いたします。

（教養部　溝内賀勝弘）

しま旅に寄せて

第6回歩こう会、主催吟道賀堂流近畿本部の「家島町、坊勢島を歩く」に参加。

平成26年5月6日、ご宗家礒部賀堂先生を真近にして、諸先生方共々ザックバランな、しま旅の歩こう会は私にとりまして想い出深い一日を戴きました。

たった今だけの楽しみの中にいる夫（認知症）と共に参加させていただき、周囲の皆様の心温かいお声がけや、サポートに感謝し、穏やかな一時を嬉しく感じました。

少々汗ばむ好天気、島民皆様方の弥栄を祈って参拝した恵美酒神社を始めに、爽やかな潮風の中を散策、勾配のある坂道、そこに建つ家々の立派さに

感嘆し、墓前への献花の華やぎ等に、「凄いね」とご先祖への心を感じました。中でも私の心を虜にしたものは、坊勢中学校校庭に設置してあった波の化石でした。永く遠い自然の営みの中で造られた彫刻美。西ノ浦海岸で新古生代の地層から発見された。日本最古の化石で希少なものだそうです。私は時間が許せば、もう少し〳〵対座して眺めていたかった程でした。何故あのような青い色のままで残ったのでしょうか、時間が止まったままの流れの姿、波の音のリズムが聞こえて来るような蓮痕でした。

もう一度じっくりと見つめたい。私は、あの青い化石を生涯忘れる事はないでしょう。

幾万年波が奏でし青き化石
刻まる波痕驚き見いる

さざ波の寄する姿をそのままに
化石は語る蓮痕の歌

思いの儘を歌にして見ました。心に残るしま旅の一日に感謝申し上げます。

（市川吟詠会　岡本賀崇寿）

姫路文学館講演会に参加

白陽吟詠会

去る6月29日㈰、姫路文学館3F講堂に於いて、姫路獨協大学外国語学部教授　岡田勝明先生の「言葉がうたになる時」というテーマで講演がありました。白陽吟詠会伊勢支部の武田鈴郁さんのお友達が聞きに来て下さり感想文をしたためて下さいましたので皆様にご紹介いたします。

（白陽吟詠会　吉永　賀鈴）

●感想文

かねてより水のようなおつき合いをさせて頂いている会員の方から、姫路文学館での講演会にとお誘いを受け、さらに「詩が歌になる時」というテーマに惹かれて参加させて頂きました。講師の先生の百科全書的なお話はテーマを超えて例えば、人類が二足歩行を可能にすることにより喉が開き、ことばを得た事。

あるいは又、頭部が首の上に乗る事により空を仰ぐようになり、太陽や月や星の運行を読んで宗教を誕生させたことなど…

ご馳走をたっぷりいただいたような講演会となりました。

帰りには会員の方が文学館の中の喫茶コーナーに連れて行って下さいました。一面に大きく張られたガラスの向こうに望景亭が驟雨（にわかあめ）に煙り、うっとりとしているところへ、やわらかな物腰の店主が注文を取りに来て下さいました。

知らないことをいろいろお尋ねするうちにコーヒーやお茶に関して世界の歴史も含めて凄腕の講師が、どうやらここにもいらっしゃることに気づき、四方山話は尽きませんでした。コーヒーが格別においしかったことはいうまでもありません。

今回のような講演会に参加させて頂ける機会を、再び与えられたらと望んでいます。素敵なひとときをほんとうにありがとうございました。

（姫路市　森川　眞喜）

近畿本部競吟大会

◎7月27日㈰　飾磨市民センター（大ホール）

宗家賞に板倉賀舷淳さん

（師範以上の部）

宗家賞を頂いて

上郡吟詠会　板倉賀舷淳

今の度は、栄えある宗家賞を頂きまして、ありがとうございました引き締まる思いと喜びを噛みしめました。

宗家先生、会長先生を始め、機会ある毎にいろいろと御指導下さいました先生方に、心よりお礼を申し上げますと共に、吟の楽しさに導き、我が子の如く大切に育てて下さった師、故起塚賀舷先生、いつも笑顔で見守って下さった　故竹内賀孝先生の御霊に、この度の結果をご報告し、いっしょに喜んで頂きたいです。

大きな瞳をさらに大きくして「よかったねェ～」と、お二人とも、きっと優しいお顔で微笑んで下さると思えるのです。

若くから詩吟を始めましたのに、途中長く休会させて頂きましたので、再開してからは軌道に乗せるのに時間が要りましたが、この度のことを機に、心新たに精進したいと存じます。

これまで、私を見守り、応援して下さいました先生方、吟姉、吟兄に、今後とも変わらぬご指導を賜りますようにお願い致しまして、お礼の言葉といたします。

誠に、ありがとうございました。

◎成績は次の通り

【師範代の部】

優　勝　立石賀烽織（篠の丸）
準優勝　宗野賀鳳芳（北辰）
3　位　高畑賀鳳美（北辰）
4　位　平野賀烽照（篠の丸）
5　位　中西賀穂芳（しらさぎ）
上位入賞　鎌田賀啓明（市川）
入　賞　上地賀和伸（白陽）
〃　影山賀瞳絹（中播）
〃　菊月賀望香（赤穂双巴）
〃　山本賀精耕（林田）
〃　今中賀紫啓（白陽）

【準師範の部】

優　勝　小薮賀暁真（東播）
準優勝　佐々木賀翔由（白陽）
3　位　竹谷賀雄重（赤穂双巴）
4　位　田中賀宝静（太子）
5　位　松本賀鈴潔（白陽）
上位入賞　森　賀　岌（うすき）
〃　喜輪理賀白壽（白陽）
入　賞　河村賀幸裕（上郡）
〃　吉田賀尊紫（太子）
〃　岩城賀石游（北辰）
〃　進藤賀翔勝（北辰）
〃　河村賀尊樹（太子）
〃　入江賀穂厚（しらさぎ）
〃　内海賀麗華（北辰）

【師範以上の部】

優　勝　板倉賀舷淳（上郡）
準優勝　多田賀勝玉（しらさぎ）
3　位　小西池賀恵礼（東播）
4　位　森川賀麗由（太子）
5　位　熊谷賀誇愛（北播）
上位入賞　古石賀恵暁（東播）
〃　下田　賀喊（赤穂双巴）
入　賞　水井賀上清（賀峰）
〃　吉田賀祐篁（賀峰）
〃　丸尾賀洋英（しらさぎ）
〃　中野賀光昌（しらさぎ）
〃　倉持賀喬覚（賀峰）
〃　髙井賀紫康（白陽）
〃　堀田賀霄凌（市川）
〃　西尾賀慶扇（市川）
〃　井上賀麗勝（北辰）
〃　千古賀劉睦（林田）
〃　森野賀穂涼（しらさぎ）
〃　門田賀柊扇（賀峰）
〃　藤尾賀承順（中播）
〃　小佐見賀劉道（林田）
〃　古川　賀晄（林田）
〃　木下賀錚媛（市川）
〃　藤原賀穂稔（しらさぎ）
〃　小島賀征赫（北辰）
〃　近藤賀京敬（しらさぎ）
〃　森田賀尊憲（太子）
〃　山本　賀瑜（白陽）
〃　水守賀星紀（太子）
〃　小林賀晃恵（白陽）
〃　塩崎賀校明（白陽）
〃　小西賀影彗（北辰）

◎6月22日㈰　飾磨市民センター（大ホール）

【初伝の部】

優　勝　古林　孝維（うすき）
準優勝　松本　孝世（北播）
3　位　松本　孝生（北播）
4　位　松岡　孝玲（赤穂双巴）
5　位　西本　孝智（白陽）

【中伝の部】

優　勝　鍋島　宣博（赤穂双巴）
準優勝　山下　宣薫（赤穂双巴）
3　位　篠原　宣勝（篠の丸）
4　位　飯塚　宣毅（太子）
5　位　松岡　宣輝（しらさぎ）

【奥伝の部】

優　勝　田中　千孝（うすき）
準優勝　田中　利烽（篠の丸）
3　位　田部　尊彦（太子）
4　位　松本　昇雲（中播）
5　位　横山　幸華（上郡）

【段位・修士の部】

優　勝　徳平堂惠雅（東播）
準優勝　宍戸堂望公（赤穂双巴）
3　位　桑田堂溪千（あおい）
4　位　山本堂竜松（白陽）
5　位　岡本堂勝孝（白陽）

【高年の部】

優　勝　神田賀勝梓（賀峰）
準優勝　衣笠賀藻良（賀峰）
3　位　秦　賀麗紅（北辰）
4　位　上月賀紫峻（白陽）
5　位　山田賀久白（白陽）

平成26年度 兵庫県吟士権者決定吟詠大会第二部（指導者之部）

◎7月6日㈰　神戸4会場

7月に平成26年度兵庫県吟士権者決定吟詠大会が開催されました。

第二部の決選12名に八木賀崇桜さんが残り、決勝吟詠の結果7位と健闘しました。

◎結果報告

決選出場

【七位入賞】　八木賀崇桜

7位入賞
八木賀崇桜さん

平成26年度 兵庫県吟士権者決定吟詠大会第一部

◎7月13日㈰　尼崎アルカイックホール

決勝入賞

9位　盛満賀石澪

上位入賞

吉田　賀芯

入　賞

大田賀筵、吉田賀祐篁、上田賀林和、清水賀操、小田賀烽、名倉賀柊峰

○第一会場

田中　静、村山涼子

○第二会場

福井幸子、桑名淳子、小西池礼子、小籔真由美

○第一会場

高井　進、熊谷愛子、津田勝正、丸尾英子、宗野由子、藤井洋子

○第二会場

山中敏昭、鎌田　保、岸本邦男、古石暁子、多田勝吉、藤本きよ子、福田恭子

○75歳以上の敢闘賞
別府昌彦、山中敏昭、橘川美恵子、下田暎一、吉田ミキエ

敢闘賞
山中敏昭さん

敢闘賞
吉田ミキエさん

敢闘賞
別所昌彦さん

（※画像のある方のみ掲載しました。）

第69回 愛連第一部吟士権大会

○9月21日
○尼崎アルカイックホール
○入　賞
村山涼子、小西池礼子、桑名淳子

第69回 愛連第二部吟士権大会

○10月5日
○尼崎アルカイックホール
○決勝出場
3　位　平山賀宝弓
○入　賞　八木賀崇桜

ふれあいの祭典「ひょうご吟剣詩舞道祭」

○10月12日
○三田市総合文化センター・郷の音ホール
○合吟競吟審査
男子、女子共に予選を通過、決選へ進む。
○決選の結果
男子チーム　準優勝（2位）
女子チーム　4位

因みに、第26回合吟競吟決勝成績発表

【男　子】
優勝　哲山流、**準優勝　賀堂流**、
3位　摂楠流、4位　摂楠流、
5位　清峰流、6位　岳風流、
7位　国風流

【女　子】
優勝　哲山流、準優勝　紫洲流、
3位　岳風流、**4位　賀堂流**、
5位　摂楠流、6位　関西吟詩

訃　報（平成26年）

謹んでご冥福を
お祈りいたします。

西橋賀勝葆（白陽）
山本賀弘修（北辰）
井上賀舟悠（市川）
嘉村賀祥彦（しらさぎ）
菅野賀淳尊（太子）

吟詠会だより

東播吟詠会

感動の伊勢神宮奉納吟詩舞大会

平成26年4月4日、早朝6時多可町ベルディホールに集合。加西市市役所前を経由して、伊勢神宮全国吟詩舞奉納のため、賀堂流の一行を乗せたマイクロバスは、一路伊勢神宮会館に向けて出発した。今年は例年と異なり、神宮遷宮と言う記念すべき歳であり何としてもお参りをはたしたいと考えて居りました。他方近年の参加者数は、減少して来ており人員確保に困難を窮める状況であり、どうなるか心配いたしておりましたが、幸いにして賀峰吟詠会の名倉賀柊峰先生のお骨折りで5名の参加を頂き、総数19名で実行する事が出来、喜びに堪えません。

唯々感謝の外ありません。神宮奉納団事務局からも深謝の意を表しておられました。

式年遷宮についても多くの方は、良くご存じのことでありますが、伊勢神宮にあっては20年に一度の大事業であります。記念誌によれば、日本人の心のふるさと、お伊勢さん・その伊勢神宮では神殿に捧げる全ての物を新しくして、大御神を新宮にお遷しする儀式であります。この事は神の魂の「よみがえり」のお祭りであり、全ての物に新しい生命を与える常若の精神の現れと言えます。新しい社殿にお参りし、日本古来の伝統文化である詩吟を、無心になって奉納できる喜びを感じております。

私達賀堂流との関わりでありますが昭和32年に奉納団が創立され、各流会派を超えて、吟友、舞友に呼びかけられ、故田村賀峰師も呼びかけ人の一人として活動された模様であり第一回目から参加されております。

また、その後田村賀峰先生の御意志を引き継ぎ、小林賀駿峰先生そして、神田賀柑先生、黒田賀耿先生が賀堂流のリーダーを務められ、三十数年間の長きに亘一度も欠かすことなく毎年参加されて来ておられますが、90歳と言うご高齢でここ一・二年は欠席される

ようになっておられます。簡単に三十数年と言いましても、それは並々ならぬ想いと、この事業を若い世代に引き継ぎ、発展させていくように願っておられます。伊勢神宮本庁の大宮司様より特別に永年のご功労に対して感謝状が贈られました。

今年も皆さんのご協力により無事何事も無く終える事ができ感謝の気持ちで一杯であります。満開の桜を背に、宇治橋から見る清流、参道の玉砂利を踏みしめる音、新しい木の香りに包まれた垣内参拝、身も心も一新される思いで感慨一入でした。競わず傲らず皇大神様に聞こしめせと、無心に吟ずる大切さを心に秘めて、今後も続けられる限り継承してゆきたいと思っておりますので皆々様方のお協力ご支援をお願い申し上げます。

（東播吟詠会　金高賀柑理）

白陽吟詠会

白陽吟詠会研修会

平成26年4月19日㈯、13時から16時30分、姫路市勤労市民会館四階大ホールに於いて、研修会を開催しました。

吉永賀鈴先生の開会のことばでスタート、野町賀少会長の挨拶に続いて塩崎賀校明先生から研修内容について説明があり、研修会に入りました。

最初は魚住賀久先生より漢詩譜節の留意点について「後夜聞佛法僧鳥・峨眉山月歌・舟発大垣赴桑名」三題の説明と実技、上半身の力を抜く事、腹筋の使い方等、ご指導頂きました。

休憩後は俳句「古池や・五月雨を・朝顔に」三題を井上賀晴和先生、桑名賀紫陽先生に漢詩と異なる処を詳しく教わり反復練習、続いて吉永賀鈴先生には初めて接する現代詩「からまつ・山のあなた」について、素読と詩の情景をイメージすると良いのではと話され幾度となく発声、あっと言う間に時間が過ぎました。

最後に高井賀旻先生の閉会の辞、今日は有意義な研修会であったと思います。諸先生、研修部の皆さん有難う御座いましたとの挨拶で幕となりました。

（白陽吟詠会　通信員　三輪賀上明）

白陽吟詠会

校鏡老壮大会開催

白陽吟詠会は平成26年度の校鏡第35回・老壮第38回吟詠発表会を5月4日㈰、ゴールデンウイークの半ば姫路市勤労市民会館で開催、103名が参加しました。司会の開会宣言に続いて国旗敬礼・国歌斉唱・慰霊黙祷、吉永賀鈴大会委員長による開会の言葉そして会詩合吟で開幕、級位から師範代まで順次競吟に入る。皆さん一人一人力強い声で発表され盛大な拍手が送られ大変盛り上がりました。

競吟が終わり次に野町賀少会長・魚住賀久相談役・渡辺賀鏡名誉会長のご挨拶、渡辺先生のお元気なお姿、百歳になりましたと力強い声で申され、老いて益々元気と言いますのも詩吟のおかげです、継続は力なりというすばらしい言葉を頂き感動しました。

午後は会場大合吟・会員吟詠・会長・

相談役・名誉会長の吟詠そして段位以上で80歳になられた方に壽賞、今年は5名の方が受賞されました。続いて高井賀旻審査委員長の講評と成績発表があり資格別に表彰がありました。

年に一度のこの大会、一人でも多く参加致しましょう。

（白陽吟詠会　通信員　三輪賀上明）

備州吟詠会

春季発表大会を開催

備州吟詠会は4月27日備前市伊里公民館で春の吟詠大会を開催した。

岸淵会長は2月17日の定例役員総会で審議決定した事業会計内容を説明し、本年度の協力方を要請した。特に本部立案進行のイベント「流祖生誕120年・創流80周年記念行事」に就いて、祝賀会は3月21日に盛大に挙行、第24回吟士権大会は8月31日であり各位の積極的な参加を促した。

大会は午前午後の二回出吟で進められる。最後の余興では色々な出演で会場は急に親睦感が溢れ和やかな一刻が流れる。特に奥田賀清美先生の扇舞「祝い駒音頭」谷本名誉会長の浪曲「俵星玄馬」の熱演に一同刮目して聴き惚れる。構成吟「児島高徳」（谷本先生構成）尾張支部の出吟もあり最後には「ヨサコイ鳴子踊り」奥田賀晴美先生先導で鳴子拍子も高らかに、仕種合わせも笑いつつ、無心になって室内を思わず二周してしまう。名残を惜しみつつ熱気裡に閉会した。

瀬戸内市は「軍師官兵衛」の黒田家との縁が深い。父「職隆」は備前福岡（当市長船町）で生まれた。祖父「重隆」を連れて移り住んだ曽祖父「高政」は此処の「教意山妙興寺」に葬られている（1403年播磨国主赤松則興の追善供養に建立）優れた多くの刀工が輩出して居り備前長船備前福岡の名刀も官兵衛の愛刀となつて居る。九州「福岡」の地名は播磨より52万石で移封された官兵衛その子長政が筑前国（福岡県西部）に築いた城に祖先が過ごした備前福岡を偲び「福岡城」と命名した事に由来すると言われて居る。

邑久町中央公民館では昨秋「特別講演会」を開いている。本年2月にはバス2台による関連史跡ゆかりの地等の探訪ツアーを行った。廣峯神社・姫路城・御着城址・黒田家廟所等々を巡って居り当吟詠会からも多くの会員が参加して居る。

（備州吟詠会　山崎賀楼明）

篠の丸吟詠会

篠の丸吟詠会祝賀会

昨年の本部競吟会では、団体五位の成績で盛り上がった篠の丸吟詠会でしたが、今年は三位と好成績となり、小田賀烽先生も「こんなに早く賞を頂けるとは」とびっくりされておられました。

先日、本部競吟詠三位の祝賀会と小田賀烽先生のささやかな誕生会を、篠の丸T・Kの会みんなで開きました。小田賀烽先生もそろそろ敬老会に入れる年齢に成られます。体力が有る限りご指導をお願いし、閉会致しました。

（篠の丸吟詠会　通信員　平野）

しらさぎ吟詠会

しらさぎ夏季研修会

7月20日(日)、城南幼稚園において、ふと東を向けば、真白き白亜の城「しらさぎ城」の勇姿を仰ぎ見る事ができた。こんな素晴らしい環境のもとで「しらさぎ夏季研修会」が研修部主催で42名の参加をもって開催された。

はじめての場所と言うのに開始予定前に全員が着席、受講者の前向きな姿勢を感じる。

はじめに小林賀雷会長から「研修内容に則り真剣に、また、リラックスして実りある研修会にしてほしい」と挨拶され、続いて、福田賀穂陽理事長（研修部長）から研修内容「俳句・現代詩・80周年への合吟・個人ごとの課題吟など」を吟じて指導者の先生からコメントを頂く方法で進めていくと説明され、それを受けて司会者の進行で研修にはいる。

平素稽古場で、指導して頂く事に加え新たな指導の仕方（譜節の基本、言い回し、動作、身体を使ってのコメント、アドバイス）などなど、よしよしの評。自分はヨシ。しかし聞き手にはダメ。改めること。簡潔な一言にうなずくなど。限られた時間ではあったが今後に役立つ、の表情、感触を得ることが出来たようだ。

研修後、相談役の各先生から「今日のように短時間のミニ研修は、真剣に無駄なく行われ有意義な研修でした。またこのようなミニ研修はチョイチョイやるべきだ」とお褒めの評を頂いた。

最後に福田賀穂陽理事長から閉会の言葉を頂き予定通り終了し散会した。

（しらさぎ吟詠会　広報部）

しらさぎ吟詠会

私の「詩吟との出会い」と夏季研修会に参加して

しらさぎ吟詠会夏季研修会に沢山の諸先生、諸先輩と共に参加させて頂きました。その中で広報担当の方から私に今日の研修会のレポートを依頼されました。私は戸惑いましたが何事にもチャレンジと思いお受けしました。

私と詩吟との出会いから書かせて頂きます。私は家の嫁として義父と、義母を見送り、何か自分の為にしたい事を捜していて1年が過ぎようとした時、中野賀光昌先生が詩吟をされている事を知り、すぐ迷うことなくお電話をしてお願い致しました。中野先生とは近所で百歩歩けば行ける距離に在り、近いという事が一番うれしい事でした。

昔から詩吟をしたいと思っていました。チャンス到来でした。とは言っても何も分からず未知の世界であるのですが何か覚えてい衝動にかられておりました。

それからの出発で4年が過ぎました。65歳になってからの手習いで私には時間がありません。先生のおっしゃることは率直に聞いて付いていこうと思いました。そして厚かましくも大先生、大先輩のいらっしゃる合吟の練習にも仲間入りさせて頂いております。

お陰さまで大勢のお友達も出来、また諸先生方に顔だけでも知って頂ける様になりました。色々な大会も経験しておく方がいいよ、と言われたら出場させ頂き、失敗の連続でがざいますが、この歳になっての緊張感も呆け防止でいいかなと前向きに努力させて頂いています。

詩吟のお稽古の日は楽しく一番うれしい日です。私にとって詩吟は「私の心にときめきを与えてくれるもの」として大変喜んでお稽古ができます。上手、下手は別として！それに加えて歴史の勉強が出来るのが嬉しいです。その様な思いでお稽古に励んでおります。色々な壁にあたりながら出来るところまで頑張りたいと思っております。壁と言えば、この研修会で先生の前で全く練習の出来ていない詩吟を吟じて全く出来ず大恥をかきました。この壁も大事にしようと気を取り直して前に進みたいと思います。

この研修会で感じた事は普段頂けない諸先生方から直接批評がいただけて緊張感と辛い批評は有難く受け入れられる機会を頂きました。本当に好い勉強会をして下さったことに感謝いたします。

この様な未熟で至らない私でございますが、どこまで皆様について行けるか分かりませんが宜しくお願い申し上げます。

（しらさぎ吟詠会　上田多恵子）

北播吟詠会

永平寺とあわら温泉の旅

10月25日、26日、待望の北播吟詠会研修旅行の日です。

定刻8時会員参加者31名が一路北陸の旅へと出発致しました。中国道に乗り、山端会長のご挨拶を頂きその後、柴田副会長の指導で吟四集・並びに和歌・俳句を合吟している内にバスは若狭道に入り色ずきの美しい山々を眺めながら賑やかな談笑を満喫し予定の若狭塗り箸体験の所へ到着し塗り箸体験をしました。

思い思いの自分の箸を削り出来栄えに苦笑してしまいました。敦賀で昼食をとり、福井県の曹洞宗大本山永平寺を参拝しました。二百名余りの雲水がおられ4時起床で「起きて半畳寝て一畳の生活」座禅の修行だそうです。

七堂伽藍を参拝し廊下がとてもきれいに掃除され埃りひとつない事、私の心も清浄になる厳かな一時でした。

最も心に残ったのは傘松閣の百五十六畳敷の大広間の天井絵で二百三十枚の花や鳥を中心に描かれた美しい色彩画で心が癒されました。

永平寺を後に、待ちに待ったあわら温泉へ到着です。ゆったりとお湯に入り旅の疲れを取り、おいしいご馳走を頂きながらカラオケ、扇舞、どじょう掬い等でとっても楽しい宴会となりました。

翌朝8時半にホテルを出発し東尋坊を観光しました。岩肌が削られ高さ25メートル程の絶壁が続き素晴らしい海のしぶきの風景は自然のうごさをものがたっているようでした。

それから小松航空プラザを見学し丁度飛行機の飛び立ちを目前に見聞きし感動しました。

昼食は月うさぎの里でし、日本海さかな街で楽しく買い物をしました。

帰りの車中では、ビンゴゲームで盛り上がり、詩吟と言う絆で皆仲良く会員の親睦と交流を図る事が出来ました。

会員一同が何事も無く元気で無事帰り着く事が出来ました事なによりです。

両日良い天候でよき友にもめぐりあい楽しい旅行が出来ました。これも詩吟の御蔭と大変嬉しく心より喜んでいます。

今後北播吟詠会を私達の手で支えて発展しますように頑張って参りたいと思います。

（北播吟詠会　熊谷賀誇愛）

編集後記

今期で広報部を退任いたします。平成23年から平成26年の4年間、年2回発行、通算8回の広報「きんき」編集作業を担当いたしました。この間、会員の皆様に原稿の投稿等、ご協力ありがとうございました。特に、教養部の方々には懇意にして頂き、自分にないものを補って頂いたこと感謝いたします。何事も協力なしでは成就いたしません。独断先行型で進めた事、お許しください。人間関係は特に重要なファクターです。次年度からは新組織の教養広報部として新鮮な次期担当者が引継ぎ、広報活動を展開して、更なる飛躍の広報紙になることを願っております。これにて退任の挨拶といたします。会員の皆様、賀堂流の発展にご協力をお願い致します。

（広報部　唐土　賀岬）